

科目		生物学	
科目分野	基礎 分野	学期	前期
学年	3 年次	担当教員	近藤 恵
単位数	2 単位		
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>本科目では、主にヒトの生物学を学ぶ。ヒトを自然界における生物種の一つとして客観的に捉え、身体形質の特徴を進化学的に理解する。さらに、身体の形態と機能の関連について着目し、そこから派生する文化や生活様式についても言及する。また、講義の中で関連する話題について、基礎的な生物学の知識の確認を行う。</p>			
【到達目標】			
<p>高等学校～大学教養課程までに学ぶ程度の生物学について、動物分野、特にヒトに関する単元をひと通り学び、基礎知識を再確認するとともに、広く生物に関する教養を身に付け、「ヒト」や「生物」により深く興味を持つようになることを目的とする。</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	ガイダンス ヒトの生物学的位置	16	
2	ヒトの身体の特徴①頭蓋、脊柱	17	
3	ヒトの身体の特徴②胸郭、骨盤	18	
4	ヒトの身体の特徴③下肢、足	19	
5	ヒトの身体の特徴④上肢、手	20	
6	ヒトと文化	21	
7	咀嚼器官の退化	22	
8	生理的早産	23	
9	音声言語	24	
10	人類進化①霊長類としての共通特徴	25	
11	人類進化②猿人、原人	26	
12	人類進化③旧人、新人	27	
13	人類進化④日本列島人の起源	28	
14	試験	29	
15	講評、まとめ	30	
教科書 参考書等	事前に準備するものはなし。授業で使用する資料は印刷物を配布する。参考書は必要に応じて授業中に紹介する。		
評価方法	試験70%、レポートもしくは小テスト30%		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A: 90～100点 (2)B: 80～89点 (3)C: 70～79点 (4)D: 60～69点 (5)F: 60点未満</p>		

科 目		総合生理学		
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前 期	
学 年	3 年次	担当教員	本多 剛	
単位数	1 単位		治療院勤務 21年	
【授業の概要】 授業形態 講義 あん摩マッサージ指圧師が施術を行う上で必要となる人体の構造と機能の知識を身につけるため、解剖生理学総論、循環器系、呼吸器系、消化器系の構造と機能について概説する。				
【到達目標】 細胞、組織、器官(循環器系、呼吸器系、消化器系)の構造・機能的概要を述べることができる。				
回	授業計画			
1	解剖生理学総論 ①			
2	解剖生理学総論 ②			
3	解剖生理学総論 ③			
4	解剖生理学総論 ④			
5	循環器系 ①			
6	循環器系 ②			
7	循環器系 ③			
8	循環器系 ④			
9	呼吸器系 ①			
10	呼吸器系 ②			
11	消化器系 ①			
12	消化器系 ②			
13	消化器系 ③			
14	期末試験			
15	試験返却・解説			
教科書 参考書等	解剖生理 第1版 東洋療法学校協会編			
評価方法	期末試験の点数で評価する。60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		経絡経穴概論			
科目分野	専 門 分 野	学 期	前 期		
学 年	3 年次	担当教員	青木 美稚子		
単位数	1 単位		治療院勤務 13年		
【授業の概要】 授業形態 講義					
<p>国家試験で出題数の多い経絡経穴概論および東洋医学概論において、それぞれが弱点を把握し強化できるよう、練習問題や小テスト、国家試験過去問題の演習、解説を通して基礎知識を定着させる。</p>					
【到達目標】					
<p>経絡経穴概論および東洋医学概論に慣れ、国家試験の基礎的な問題を解くことができる。</p>					
回	授業計画		回	授業計画	
1	ガイダンス、自己評価		16		
2	十二経脈の流注、陰陽論・五行論①		17		
3	小テスト①、五要穴①、陰陽論・五行論②		18		
4	五要穴②、気血津液精の生理①		19		
5	小テスト②、前腕の経穴、気血津液精の生理②		20		
6	下腿の経穴、臓腑の生理①		21		
7	小テスト③、胸腹部の経穴、臓腑の生理②		22		
8	背部の経穴、臓腑の整理③		23		
9	小テスト④、五要穴③、気血津液の病理①		24		
10	五要穴④、気血津液の病理②		25		
11	五要穴⑤、気血津液の病理③		26		
12	小テスト⑤、予備日		27		
13	まとめ		28		
14	試験		29		
15	試験返却、解説		30		
教科書 参考書等		新版 経絡経穴概論 第2版 東洋療法学校協会編 新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会編			
評価方法		小テスト(50%)および前期期末試験の評価(50%)を合計して評価する。 60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		臨床医学各論Ⅱ	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期
学 年	3 年次	担当教員	富山 好美
単位数	2 単位		実務経験 20年以上
【授業の概要】 授業形態 講義			
解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論などを基礎として、代表的な疾患の病態、症状などについて概説する。			
【到達目標】			
1) 疾患の病態を理解し、症状などを説明することができる。 2) 総合的に国家試験の過去問を解くことができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	第11章 神経疾患	16	第12章 リウマチ性疾患・膠原病
2	第11章 神経疾患	17	第12章 リウマチ性疾患・膠原病
3	第11章 神経疾患	18	第13章 その他の領域
4	第11章 神経疾患	19	第13章 その他の領域
5	第11章 神経疾患	20	第13章 その他の領域
6	第11章 神経疾患	21	第13章 その他の領域
7	第11章 神経疾患	22	総復習①
8	第11章 神経疾患	23	総復習②
9	第11章 神経疾患	24	総復習③
10	第11章 神経疾患	25	中期試験
11	第13章 その他の領域	26	試験返却、解答・解説
12	第13章 その他の領域	27	総復習④
13	第13章 その他の領域	28	総復習⑤
14	前期試験	29	総復習⑥
15	試験返却、解答・解説	30	総復習⑦
教科書 参考書等	臨床医学各論 第2版 臨床医学総論 臨床医学各論 追加資料		
評価方法	前期試験及び中期試験を合計して評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

科目		東洋医学臨床論Ⅱ		
科目分野	専門 分野	学 期	前中 期	
学 年	3 年次	担当教員	山口智也(治療院経営 9年)	
単位数	4 単位		浅谷健介(治療院経営15年)	
【授業の概要】 授業形態 講義 東洋医学臨床論とは、解剖学、生理学、臨床医学総論・各論、東洋医学概論、経絡経穴概論の知識を統合して病態生理を判断しあん摩マッサージ指圧師として施術適応かどうかを学ぶ科目です。(山口) あん摩マッサージ指圧師が臨床の場において多く遭遇する疾患に対して、病態把握とともに鑑別診断、症状、検査、治療について学習する。(浅谷)				
【到達目標】 患者から得られる所見より施術適応の可否を判断し、あん摩マッサージ指圧療法を活用するまでの一連の流れを習得する。				
回	授業計画(山口)			
1	気・血・津液、五臓	16	便秘・下痢	
2	気・血・津液、五臓	17	便秘・下痢、月経異常	
3	歯痛	18	月経異常	
4	眼精疲労	19	排尿障害	
5	鼻閉・鼻汁	20	インポテンツ	
6	脱毛症	21	血圧異常	
7	めまい	22	肥満	
8	耳鳴り・難聴	23	発熱	
9	咳嗽	24	のぼせ冷え	
10	喘息・喘鳴	25	中期試験	
11	胸痛	26	中期試験解説、不眠	
12	腹痛	27	疲労、小児疾患	
13	悪心・嘔吐	28	小児疾患、老年医学	
14	前期試験	29	老年医学	
15	前期試験解説、食欲不振	30	問題演習1	

回	授業計画(浅谷)		
1	治療総論	16	膝関節痛
2	頰椎症	17	膝関節痛
3	胸郭出口症候群	18	頭痛
4	肩関節痛	19	頭痛
5	腱板損傷	20	顔面痛
6	肩関節周囲炎	21	顔面神経麻痺
7	絞扼性神経障害	22	スポーツ外傷
8	絞扼性神経障害	23	ストレッチ
9	絞扼性神経障害	24	外側上顆炎
10	腰下肢痛	25	期末試験
11	腰痛症	26	野球肩
12	腰痛症	27	腱鞘炎
13	物理療法	28	膝関節障害
14	期末試験	29	膝関節障害
15	物理療法	30	骨折・脱臼
教科書 参考書等	東洋医学臨床論(あん摩マッサージ指圧編・鍼灸編) 東洋療法学校協会編 新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 配布プリント		
評価方法	前期試験及び中期試験の結果で評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科目		あん摩マッサージ指圧理論			
科目分野	専門 分野	学 期	前中 期		
学 年	3 年次	担当教員	前期: 上床 真耶(治療院経営 6年)		
単位数	1 単位		中期: 久保井 律子(治療院経営 3年)		
【授業の概要】 授業形態 講義					
<p>施術者が臨床現場において、あん摩マッサージ指圧の適応、禁忌、治効の基礎的な知識を身につける為、あん摩マッサージ指圧の基本手技、歴史、その他の手技療法、併用する物理療法、施術の生体反応や関連学説まで概説する。中期は国家試験に向けて主にあん摩マッサージ指圧理論の問題演習を行う。</p>					
【到達目標】					
<p>あん摩マッサージ指圧の特徴、意義、歴史的背景、基本手技とその作用を説明できる。 臨床現場で基本手技とその他の手技、併用する物理療法の種類と特徴について説明できる。</p>					
回	授業計画		回	授業計画	
1	授業の進め方 あん摩・マッサージ・指圧の意義と沿革		16	問題演習	
2	あん摩・マッサージ・指圧の基本手技		17	問題演習	
3	あん摩・マッサージ・指圧の基本手技		18	問題演習	
4	あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす作用		19	問題演習	
5	運動の生体におよぼす作用 あん摩マッサージ指圧の治療効果		20	問題演習	
6	あん摩マッサージ指圧と東洋医学		21	問題演習	
7	あん摩マッサージ指圧の応用		22	問題演習	
8	併用する物理療法		23	問題演習	
9	あん摩マッサージ指圧の施術上の注意		24	問題演習	
10	予備日		25	問題演習	
11	演習		26	中期試験	
12	演習		27	試験解説	
13	演習		28	問題演習	
14	試験		29	問題演習	
15	試験解説		30	問題演習	
教科書 参考書等		あん摩マッサージ指圧理論 第2版 東洋療法学校協会編 配布プリント			
評価方法		試験の点数、60点以上で合格			
成績評価指標		<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満</p>			

科目		課題研究		
科目分野	専門 分野	学 期	前中 期	
学 年	3 年次	担当教員	前期:久坂 健太(治療院勤務1年)	
単位数	2 単位		中期:青木 美稚子(治療院勤務13年)	
【授業の概要】 授業形態 講義 前期:国歌試験で重要度の高い解剖学・生理学において、弱点の把握、記憶の定着ができるよう、小テスト、問題、解説を中心に行う。 中期:国家試験で出題数の多い経絡経穴概論および東洋医学概論において、それぞれが弱点を把握し強化できるよう、問題演習と解説を中心に行う。				
【到達目標】 前中期:問題演習を通じて国家試験に慣れ、知識を定着させる。				
回	授業計画(久坂)		回	授業計画(青木)
1	骨格系 総論		16	前腕前面の経穴、弁証総論、臓腑弁証①(肝・胆)
2	骨格系 体幹		17	前腕後面の経穴、臓腑弁証②(心・心包)
3	骨格系 四肢		18	下腿の経穴①、臓腑弁証予備日①
4	筋系 総論		19	下腿の経穴②、臓腑弁証③(脾・胃)
5	筋系 体幹		20	足部の経穴、臓腑弁証④(肺・大腸)
6	筋系 上肢		21	胸腹部の経穴、臓腑弁証⑤(腎・膀胱)
7	筋系 下肢		22	背部の経穴、臓腑弁証予備日②
8	筋系 頭頸部		23	臀部の経穴、経脈の流注と経脈弁証
9	問題演習①		24	大腿部の経穴、病因①
10	神経系 総論		25	肩周囲部の経穴、病因②
11	末梢神経系		26	試験
12	末梢神経系		27	試験返却、四診①
13	問題演習②		28	後頸部の経穴、四診②
14	試験		29	顔面部の経穴、予備日
15	試験返却 あん摩マッサージ指圧の歴史		30	手の経穴、現代的研究
教科書 参考書等		解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社		
評価方法		前期:試験結果から評価する。60点以上で単位を認定する。 中期:中期期末試験により評価する。60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科目		臨床指圧各論Ⅱ		
科目分野	専門	分野	学期	前中期
学年	3	年次	担当教員	金子 智久(治療院勤務 3年、治療院経営 22年)
単位数	1	単位		金子 泰隆(治療院経営 21年)
【授業の概要】 授業形態 実技 卒業まで一年を切りました。この授業では患者様の主訴に対して治療を組み立てる要素を学習し、将来に役立てて頂きたいと思えます。卒業後の現場を想定し、ベッドを主に使い学習して行きます。 実際に臨床で多く遭遇する症状に対し、的確かつ効率的に対応できる力を身に着けるために、応用操作を中心に進めていく。				
【到達目標】 卒業後を見据え、患者様の主訴に対し、治療方法を選択でき、単位時間にて有効な施術が出来る。 患者の病態把握に基づき、適切な施術法を組み立てることができる。				
回	授業計画(金子智)		回	授業計画(金子泰)
1	姿勢・スタンスの確認:伏臥位(床)		16	ガイダンス
2	姿勢・スタンスの確認・腹部指圧の効果:仰臥位(床)		17	基本指圧の姿勢の確認①
3	指圧における運動操作の意義		18	基本指圧の姿勢の確認②
4	腸腰筋の評価と指圧治療		19	基本指圧の姿勢の確認③
5	仙腸関節への指圧法①		20	膝痛に対する応用操作
6	仙腸関節への指圧法②		21	腰痛に対する施術
7	仙腸関節への指圧法③		22	肩関節痛に対する応用操作
8	梨状筋の評価とアプローチ		23	肩関節痛に対する施術
9	大腿筋膜張筋の評価とアプローチ		24	腰痛に対する応病操作
10	腰椎椎間関節へのアプローチ、復習		25	腰痛に対する施術
11	斜角筋症候群の治療法①		26	頸部痛に対する応病操作
12	斜角筋症候群の治療法②、胸鎖乳突筋の治療法		27	頸部痛に対する施術
13	頸椎椎間関節機能障害の治療法		28	その他の症状に対する応病操作①
14	期末試験①		29	その他の症状に対する応病操作②
15	期末試験②		30	前期まとめ
教科書 参考書等		指圧療法学 改訂第1版 国際医学出版		
評価方法		実技試験、出席状況、授業への取り組み方などを総合して評価する。 欠席は-5点、遅刻・早退は-3点減ずる。(金子智) 期末試験の点数と授業態度等を総合的に判断する。(金子泰)		
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

	3		

--	--	--	--

1		25	
2		26	
3		27	
4		28	
5		29	
6		30	
7		31	
8		32	
9		33	
10		34	
11		35	
12		36	
13		37	
14		38	
15		39	
16		40	
17		41	
18		42	
19		43	
20		44	
21		45	
22		46	
23		47	
24		48	

科 目		総合解剖学	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	中 期
学 年	3 年次	担当教員	久坂 健太
単位数	1 単位		実務経験 治療院勤務1年
【授業の概要】 授業形態 講義			
国家試験に向け、解剖学(内臓器、神経系)について演習問題をもとに生理学、臨床医学に関連付けて、小テスト、問題、解説を中心に知識の定着をしていく。			
【到達目標】			
各組織の構造、運動を理解し、演習問題を解くことができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	神経系	16	
2	中枢神経系	17	
3	中枢神経系	18	
4	感覚器系	19	
5	感覚器系	20	
6	泌尿器系	21	
7	泌尿器系	22	
8	生殖器系	23	
9	生殖器系	24	
10	A: 期末試験 B: 問題演習	25	
11	A: 試験返却 B: 期末試験	26	
12	A: 問題演習 B: 試験返却	27	
13	内分泌系	28	
14	内分泌系	29	
15	問題演習	30	
教科書 参考書等	解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社		
評価方法	試験結果から評価する。 60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A: 90~100点 (2)B: 80~89点 (3)C: 70~79点 (4)D: 60~69点 (5)F: 60点未満		

科目		関係法規	
科目分野	専門基礎 分野	学期	中期
学年	3 年次	担当教員	上床 真耶
単位数	1 単位		実務経験 6年
【授業の概要】 授業形態 講義			
あん摩マッサージ指圧師の法的根拠となるあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律(あはき法)とあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律施行規則(あはき法施行規則)について、卒業後関係すると考えられる条文を読み込んでいく。			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> 日本の医療福祉制度におけるあん摩マッサージ指圧師の法的根拠、位置づけを理解する。 あん摩マッサージ指圧師の法的制限、注意事項について説明できる。 			
回	授業計画	回	授業計画
1	免許① 医業類似行為、法第1条、	16	
2	免許② 積極的要件、消極的要件、名簿	17	
3	免許③ 名簿登録消除、免許証(書換交付、再交付、返納)	18	
4	免許④ 免許に関する問題演習、業務の独占	19	
5	業務① 禁止行為、制限行為、施術所の開設、要件	20	
6	業務② 出張業務、滞在業務、広告制限	21	
7	業務③ 施術所名称制限、秘密保持義務、両罰規定、業務停止命令	22	
8	グループディスカッション	23	
9	演習	24	
10	試験	25	
11	試験解説	26	
12	関係法規①法と実定法、医事法規と医療制度	27	
13	関係法規②医師法、その他の医療従事者に関する法律	28	
14	関係法規③薬事法規、社会福祉関係法規	29	
15	演習	30	
教科書 参考書等	関係法規(第7版) 東洋療法学校協会編 前田和彦 著 配布プリント		
評価方法	中期試験の点数、60点以上で合格		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科 目		応用指圧実技Ⅱ	
科目分野	専 門 分 野	学 期	前中後 期
学 年	3 年次	担当教員	藤田一彦(治療院勤務9年、治療院経営36年) 浪越雄二(治療院勤務33年) 碓田雅子(治療院経営22年) 石塚洋之(治療院勤務16年) 大久保直子(治療院勤務20年) 青木美稚子(治療院勤務13年)
単位数	4 単 位		
【授業の概要】 授業形態 実技			
1,2年で学習した解剖学、生理学、臨床医学、基本指圧、応用指圧、臨床実習前講習などをベースに指圧適応症状への知識とそれらに対する施術技術を習得する。			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・症状に適応した指圧操作が出来る。 ・各適応疾患の説明ができる。 ・治療効果が上がる指圧操作ができる。 			
回	授業計画(前期:藤田)	回	授業計画(中期:碓田)
1	肩関節周囲炎	16	臨床の現状/スタンス確認
2	肩関節周囲炎	17	肩関節治療1
3	肩関節周囲炎	18	頸部治療
4	復習 横臥位	19	腱鞘炎・肘治療
5	腰痛	20	膝痛治療
6	腰痛	21	腰痛治療
7	腰痛	22	肩関節治療2/各部位復習
8	復習 横臥位	23	各部位復習/試験対策
9	変形性膝関節症	24	実技試験
10	変形性膝関節症	25	美容と指圧1
11	変形性膝関節症	26	美容と指圧2
12	復習	27	美容と指圧3・各部位復習
13	期末試験	28	訪問マッサージ指圧と機能訓練1
14	期末試験	29	訪問マッサージ指圧と機能訓練2
15	振り返り	30	復習と機能訓練3/経験談/リスク管理

回	授業計画(中期:石塚)	回	授業計画(後期:浪越 大久保 青木)
31	腰痛症① 評価と指圧法	46	模擬試験
32	腰痛症② 評価に応じた各種訓練	47	模擬試験
33	腰痛症①・② 復習	48	応用指圧操作(大久保、青木)
34	症例トレーニング 腰痛症	49	横臥位での応用操作①頭部、頸部、上肢(浪越)
35	肩関節疾患① 評価と評価に応じた指圧法	50	応用指圧操作(大久保、青木)
36	肩関節疾患② 評価に応じた各種訓練	51	横臥位での応用操作②腰部、殿部(浪越)
37	症例トレーニング 肩関節疾患	52	応用指圧操作(大久保、青木)
38	膝関節疾患① 評価と検査法	53	横臥位での応用操作③下肢(浪越)
39	膝関節疾患② 評価に応じた指圧法	54	応用指圧操作(大久保、青木)
40	膝関節疾患③ 評価に応じた各種訓練	55	伏臥位での伏臥位での応用操作①腰部、下肢(浪越)
41	症例トレーニング 膝関節疾患	56	模擬試験
42	頸部の施術 触診と関節へのアプローチ	57	模擬試験
43	総合復習	58	応用指圧操作(大久保、青木)
44	骨盤アライメント触診	59	仰臥位での応用操作、頭部、顔面、頸部(浪越)
45	実技テスト	60	復習
教科書 参考書等	指圧療法学		
評価方法	実技試験、出席状況、授業の取り組み方を総合して評価。 欠席、遅刻、早退等は減点する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		